

まだ使えるお水

城南小 三年 和須津 風花

「水も、たいなくないか。」

部活から帰ってきたお兄ちゃんか、ただいまの後にそう言いました。お兄ちゃんはいく上りで、公園にあるきょうぎ場で部活をしてきました。その公園にあるふん水がゴールデンウィークになってまた始まりました。さよおくて遊んでいる子どもがいけないのに、ふん水の水が出ていたと教えてくれました。それを

2

を聞いて、あたしもも、たいないなと思いましたが。

あたしは朝、おきてから出るまで、顔をあらう、トイレの水を流す、お茶あみをあらう、せんたくする、学校の水をのむ、家に帰ってきてから手をあらう、お風呂に入る、少し考えると、水を使うことをたくさんしています。

春休み図書館で、アプガニスタンで水を造った日本人の本をかりました。日本から遠くはなれたアプガニスタンという国には、び

よういんも水もない場所があります。中村て
 つ先生というお医者さんは、そこでくらす人
 たちをたすける仕事をしてきました。びょう
 気にな、た時にびょういんがない、水がない
 もしわたしだ、たらどういう毎日をするして
 いるのだらうとふしぎに思いました。

二年生の時に学校の図書館でかりた本は、
 アフリカの女の子が毎日早おきして、川に水
 をくみに行くお話でした。わたしは、毎日じ
 ゃ口を開ければおいしい水を飲むことができ

ます。その子たちが水くみをしている時間に
 学校でべん強したり、おいしいきゅう食を食
 べることができません。それができないのは、
 かおいそうです。本を読んで世界にはきれい
 な水を飲むことができない場所があることが
 分かりました。きれいな水がなければ、びょう
 う気になると思うし、野さいやお米を作るこ
 とができないと思います。だからお兄ちゃん
 が言っていたふん水の水は大切な物だと分か
 いました。

5

きよ年の夏、わたしは食べたスイカからた
 ねをのこしておいて、それを土に植えてそだ
 てました。その時、庭においてある、水がた
 まった大きなバケツから、ジョロロで水をく
 んで、プランターにあげました。どうしてふ
 つうの水をあげないのかお母さんに聞くと、
 「その水は、まだまだ使えるお水なのよ。飲
 むことはできなくても、庭のお花や野菜に
 へあげられるのよ。」
 と教えてくれました。そしてわたしの家では、

6

おせんたくや自分のくつをあらう時、おろろ
 ののこったお湯を使っています。それもまだ
 まだ使える水だからです。使えるものはリサ
 イクルするのは大切だと思います。
 そして、もったいないと思っていた公園の
 ふん水の水は、お父さんがインターネットで
 「飲むにはできさない水」だと調べてくれま
 した。そういう水でも世界には手に入らない
 人もいると思います。だからわたしは自分の
 できるせ、水をしていきたいと思います。